

動物園セミナー  
現在の姿から偲ぶ野毛山動物園の歴史



藤岡隆二  
(野毛山動物園)

野毛山動物園は終戦後間もない1951年4月に開園し、2021年に70周年を迎えます。

開園当時の正式名称は野毛山遊園地で、当初は観覧車などの遊具がある遊園地も併設されていましたが、1964年に給水池の拡張工事に伴い遊園地部分は閉鎖され、入園料は無料となりました。1972年に名称を野毛山動物園と変更し改修を重ねるうちに動物も増えて、多いときには300種以上の動物を飼育していました。

1999年4月よこはま動物園ズーラシアが一次開園し、多くの動物がズーラシアへ移動するのに伴い、2002年まで約4年に及ぶ大規模なリニューアル工事を行いました。その後も、開園の年から飼育していたインドゾウ「はま子」が2003年に死亡してゾウ舎の跡地に多目的スペースのひだまり広場が作られ、世界最高齢を記録したフタコブラクダの「ツガル」が2014年に死亡してラクダ舎の跡地にコアリクイ舎ができるなど、形を変えながら現在に至っています。

今回野毛山動物園の歴史を振り返るにあたり、開園から年代順に紹介するのではなく、現在の姿から過去の様子が偲ばれる場所を重点的にピックアップしてみました。実際に見たことがない施設も現在の様子と比較することで大きさなどをイメージできると考えたためです。

今回紹介しきれなかった写真や動画は野毛山動物園で開催する開園70周年記念イベントにおいて園内各所の掲示板や園内2箇所に設置するデジタルサイネージで紹介する予定です。

さらに開園当初からのあゆみを詳しく知りたい方は横浜市動物園友の会の機関紙「Zooよこはま」で連載している「野毛山動物園の歴史」をご覧ください。



1970年代の入園口